

令和3年度病害虫発生予察情報 特殊報 第2号

令和3年 8月 17日
広島県西部農業技術指導所

1 病名 オリーブカタカイガラムシ *Saissetia oleae* (Olivier)

2 発生作物名 オリーブ

3 特殊報の内容 広島県における初発生

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和3年6月28日

(2) 発生地域 広島県南部

(3) 確認の経緯

令和3年6月、広島県南部のオリーブ栽培ほ場（露地）におけるオリーブ苗木（品種：ペンドリーノ）で、黒い球状の塊と貝殻様の付着物を発見した（写真1）。広島県西部農業技術指導所にて黒い球状の塊を割って観察したところ、中に多数の卵と幼虫が確認されたため、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、オリーブカタカイガラムシと同定された。

(4) 他県での発生状況等

国内では、令和2年に静岡県のおリーブ、令和3年に神奈川県のおリーブで特殊報が発表されている。広島県では初めての確認である。

5 形態および生態

雌成虫は、体長が3~4mmの楕円形で、未成熟成虫のうちは淡褐色で扁平な形で枝等にへばりついており、背中部分に「工」字形の隆起がある（写真2）。成熟成虫になると、硬化して「工」字形の隆起は不明瞭となって暗褐~紫褐色の半球状の塊になり（写真1）、内部には卵あるいは幼虫が多数生息する（写真3）。単為生殖で増殖し、年に数世代を繰り返す。

6 被害および主な寄生植物

幼虫と雌成虫が枝、葉に寄生し、発生が多いと、排泄物で葉や果実が汚れ、落葉したり、苗木や樹勢の弱い樹は枯死にいたることもある。寄生植物は、オリーブ、カンキツ類、マンゴー、ヒメツバキ等、様々な樹木類に寄生する。本虫は、ヨーロッパ、アメリカ合衆国カリフォルニア州に広く分布しており、トビコバチ類を利用した生物防除の研究が行われている（T.Alejandroら、2009）。日本では小笠原諸島、南西諸島に分布している。

7 防除対策

(1) 本種に寄生された枝や葉は発見次第除去し、ほ場外で処分する。

(2) 令和3年7月に、モベントフロアブルの「オリーブ」及び「オリーブ（葉）」（適用病害虫名：カイガラムシ類）が追加登録された。登録内容を遵守して適切に散布する。

表1 モベントフロアブル（適用病害虫名：カイガラムシ類）の登録内容（令和3年8月12日現在）

作物名	希釈倍数	散布量	使用時期	使用回数	使用方法
オリーブ	2000倍	200~700ℓ/10a	収穫7日前	本剤：2回以内， スピロテトラマト：2回以内	散布
オリーブ（葉）			収穫90日前		

〈参考文献〉

Alejandro, T. and G. Ferran. 2009. Brood size, sex ratio and egg load of *Metaphycus lounsburyi* (Hymenoptera: Encyrtidae) when parasitizing adult females of black scale *Saissetia oleae* (Hemiptera: Coccidae) in the field. *Biological Control*. 51:110-115.



写真1 オリーブの枝に寄生するオリーブカタカイガラムシ雌成熟成虫



写真2 オリーブカタカイガラムシ未成熟雌成虫の背面の「工」字状隆起



写真3 オリーブカタカイガラムシ成熟雌成虫体内の卵と幼虫